

# 星屑

2011年11月号

No. 440



アンドロメダ銀河 (M31) 距離 230万光年  
口径20cm (FL:800mm) 反射望遠鏡 EOS 20Da

M31 アンドロメダ座の銀河

VIXEN 20cm 反射 (FL:800mm) EOS 20Da 4分露出6枚を合成

熊本県民天文台

9月12日（月） フィールドミュージアム

# 中秋の名月を見よう、写そう！

20:00～22:00 参加者63名、それぞれ、デジカメや携帯で撮影！

曇天にもかかわらず大勢が参加、途中から晴れ間が出始めて・・・

準備した空のペットボトルで、コリメート撮影の練習をして頂きました



## 天体写真撮影は、大人気！

「中秋の名月を、自分のカメラで撮影しよう!」というテーマ、よほどの人気なのですね。この日は、日中からドン曇り、開始時刻直前には時折雨がぱらつくというお天気だったのに、参加者は63名で、22時まで、しっかり賑わいました。県文化企画課の担当者さんも、大勢の参加者が開始時刻前から続々と集まってくるのに驚いていました!

## 空のペットボトルが活躍

まず、プロジェクターを使って、天文台の壁面に「望遠鏡とデジカメでお月さんを撮影する方法」を投影しながら、分かりやすく解説。次に、用意しておいた空のペットボトル20本を会場に配布しました。ちょうど一家族当たりにペットボトルが1本の割合です。

そして、ペットボトルの口を接眼レンズに見立てて、そこにカメラのレンズを押し当て、ペットボトルの底が液晶画面の真ん中に、きれいに丸く写るよう、何度も練習して頂きました。参加者達は、最初はうまくいかなくて首をかしげていましたが、そのうちに家族の中の誰かがうまく撮影できると、次々にそのノウハウを伝えあって、撮影の要領を覚えたようでした。

この間、わずか数分です。「しっかり練習してから2階の観測室に上がって下さい」「望遠鏡のそばで1分以上もたましていたら、交代してもらいますからね!」なんて「脅し文句」も使いましたから、皆さん真剣に練習したのかも知れません。

### **難しいことを易しく解説**

いわゆるコリメート法で月面写真を撮影するには、接眼レンズとカメラレンズとの位置関係を調整して、両者の光軸をピッタリそろえることが必要です。ところが、「光軸」なんて日本語は普通の市民にとってはもうすでに死語ですからね。言葉だけで解説したのではまるでちんぷんかんぷんの状態です。

しかし、「光軸をそろえる」という意識なしに撮影を始めてしまうと、あちこち勝手な方向にカメラを動かし続けてしまい、撮影できるまでにずいぶん時間がかかってしまいます。2時間ほどのイベントの中で、大勢の参加者全員にお月さんを撮影してもらうなんてことは、絶対に無理な話になってしまいます。

そこで編み出したのが、上記のペットボトルを使う撮影トレーニング法だったのです。練習をしている間も、壁面スクリーンには撮影法を解説する漫画が投影されていますから、何度もその画面と自分の手元とを見比べて、納得のいくまで練習してもらえるところが良いですね。

おまけに、「カメラはゆっくり動かしてください!」「カメラを早く動かすと、画面がついてこれませんからね」なんていう高度なテクニックについても、解説できちゃうのです。

### **日頃の行いが良いからか?**

あれだけ分厚かった雲が、解説をしている間に薄れ始め、時々は晴れ間が通るように変わりました。参加者達は大いに喜び、張り切って観測室へと上がっていきます。それで、私もつい張り切ってしまい、2時間以上ぶっ通しで解説。会場からの質問に答えつつ、ギャラッド彗星、M101に出現した超新星という最新の話題も、天文台で撮影した最新の画像で紹介。そうしているうちに段々晴れ間が広がって・・・夏の大三角やへびつかい座、ヘルクス座、さそり座、いて座、天の川、北天のカシオペア座と北極星などについても解説しました。

中でも、「地球は縦回り」の解説と、「ブラックホール」についての解説には、鋭い質問が相次ぎ、終わり頃は、参加者からの質問が止まらない状態になりました。

### **初めて参加した家族が多かった**

「中秋の名月」にこだわって開催したので、当日は月曜日。仕事の調整など、運営を担当するスタッフは大変だったようです。開始時刻前の準備中は、ドン曇りだったこともあって、県の担当者も天文台のスタッフも、「もう、平日に開催するのはやめようよ」なんて言っていたのです。ところが、いざフタを開けてみたら大勢の参加者で賑わい、しかも初めて県民天文台へ来たという家族が大半を占めていました。これは嬉しい誤算でしたね。

おまけに、参加された方々のマナーがとても良くて、イベントを進めるうちに運営側の満足度が急上昇。最後は、「いやー、大変だったけど、とても楽しかった!」に変わってしまいました。数名の会員さん・運営委員さんが応援して下さいだったので、天文台の玄関前の広場にも数台の望遠鏡を設置できました。いろんな望遠鏡でたっぴりと中秋の名月を観察したり、撮影できたりしましたから、参加者の満足度は相当に高かったのではないのでしょうか。

お忙しい中にもかかわらず応援して下さいました皆さん、ありがとうございました!

# 9/12(月) 熊本県民天文台 開設時の城南町長 宮部末雄氏が 逝去

99歳7カ月だったそうです 9月15日(木)、台長が葬儀に参列しました

## 天文台の開設を全面的に支援！

天文台建設計画が動き始めた、1981年のある日、宮本さんと私(艶島)とで、城南町役場を訪問、当時町長だった宮部氏と町長室で面会しました。そこで「アマチュア天文愛好家の団体ですが、城南町に天文台を建設して、一般公開を始めたい」と説明。すると宮部氏は「それは良い話だ。城南町は歴史と文化、それと教育を軸に町おこしをしようと考えているところだ」と身を乗り出されました。

間髪をおかずに「土地は？ 資金の準備は？・・・」と質問されました。「一応予定地を決めているが、杉林なので造成費がかかりそう、見晴らしも少し気になる」と伝えると、「じゃあ、その隣に良い土地がある、元は桑畑だが耕作放棄地で造成も簡単、所有者の息子は役場の職員だし、安く貸してくれるはずだ。」と、天文台建設に最適な土地を紹介して下さいました。

さらに、当時の教育長山田氏にも声をかけ、「町を挙げて資金面の援助をしよう。町内で募金活動を進めてくれるよう各地区の囑託員さんたちに諮ってくれないか？」と相談。「目標額は、望遠鏡の購入資金300万円を寄付するといっているライオンズクラブ以上の額にしよう!」と、一気に計画を具体化させて頂きました。

あのときの宮部末雄城南町長の素早い決断と行動力が、熊本県民天文台の誕生にどれだけ大きな役割を果たしたか、そのことを今思い出しています。

数々の大きな決断をされ、城南町の基礎作りに邁進された宮部末雄氏、退職後も長い間県民天文台の名誉台長として、私たちの活動を見守り支援し続けて下さいました。その功績を讃え、多大なご支援に感謝しつつ、ご冥福をお祈りいたします。

## 9月30日(金) 何年ぶりだったでしょうか？

# 星の手帖社 を 訪問

「村山さんの米寿を祝う会」の打ち合わせにも同席させて頂きました



お土産に「馬刺しの燻製」を持参したら、「冷えたビール」で歓迎されました。米寿を祝う会の打ち合わせが終わってから、近くのイタリア料理店で夕食会、近況を報告しました。

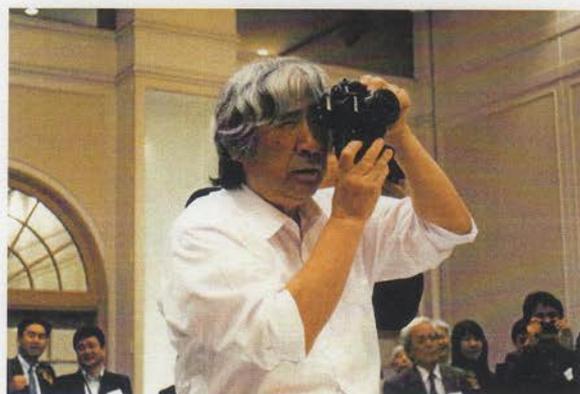
県民天文台のみんなが、「ぜひ参加するべきだ」と旅費を出してくれたことを紹介。天文台のオープン当時の写真を編集し、パウチ加工した、村山さんへのプレゼントも見てもらいました。すると、「あらあ、村山先生、若いねえ!」と歓声を上げ、大いに喜んで下さいました。

「それにしても、熊本県民天文台は、よく続いているよねえ」とか、「本当に、熊本はパワフルですね」というお褒めの声も頂きました。

そうやっている間にも、「米寿を祝う会」の参加予定者から次々に電話が入ったり、お祝いが届いたり、夜遅くまで準備作業が続きました。

## 10/1(土) 東京・新橋の新橋第一ホテルで 村山定男先生の米寿を祝う会

熊本県民天文台として参加、思い出の写真とお祝いの言葉を届けました



上左：星の手帖社 阿部編集長  
左：藤井旭氏 上：村山定男氏



古在元国立天文台長が乾杯の音頭



### 160名余が参加して

広い会場も満杯になるという大盛況! お祝いの会が始まる前から、あちこちで参加者同士の交流の輪ができ、笑顔が一杯の談笑が始まっていました。こんなところにも、長年にわたって天文学の解説や普及に取り組み続けられた村山さんの人柄が現れているのでしょうか。

定刻の17時に、世話人代表を務める阿部昭氏(星の手帖社編集長)が開会を宣言して、「米寿を祝う会」が始まり、最初に、村山さんのご挨拶がありました。

### 村山さんの挨拶

村山さんは、天文普及に取り組み始めた頃からの歩みを振り返りつつ、会場に来ている古くからの友人や仲間たちを一人一人紹介。続いて、脳梗塞や前立腺癌と向き合っている近況について触れ、それから、来年の金環日食や金星の日面通過にも言及。「できることなら、もう少し頑張って天文現象を楽しんでいたい」と、米寿を迎えた感想をまとめられました。会場からは大きな拍手、元国立天文台長の古在氏の音頭で乾杯しました。



見事な 万歳三唱 でした



花束をもらって 笑顔

### 県民天文台から、お祝いの言葉を

ステージには、日本の天文会を代表する方々が次々と上がって、お祝いの言葉を述べられ、村山さんとのエピソードが語られました。熊本県民天文台にも声がかかり、私もステージに。そこで、開所記念講演会当時の村山さんの言葉を紹介、県民天文台が来春30周年を迎えることなどを報告。「村山さんが後援して下さったお陰で県民天文台がスタートできた、今日は、私たちの元気を、村山さんに届けたい」と、お祝いの言葉を述べると、会場から大きな拍手。参加できて良かったです。

### 2次会では海部前国立天文台長と懇談







**10月22日（土） 城南公民館主催**

## 秋の星空観測

### 親子で天文台訪問

19:00~21:00 応援できる方は、よろしくお願ひします！

**10月29日（土） 熊本県環境教育指導者派遣事業**

## 水俣市立葛渡小学校 5年生

### 星の観察会

19:00~21:00

出張

**10月30日（日） 火の君まつり**

## 昼間の一般公開

10:00~15:00 応援できる方は、よろしくお願ひします！

☆☆☆☆☆☆☆☆

昼間の星を探そう！

☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆ 金星が太陽に近いですから、今年も、太陽の観察になりそうです ☆☆☆

**11月4日（金）～ 6日（日） 火の君文化祭**

## 秋の星空観察体験講座

19:00~21:00 通常の「一般公開」に参加して頂きます

**11月12日（土）～13日（日）**

福岡県宗像市の 宗像ユリックス で

**天文教育普及研究会 九州支部集会**

9/17~9/18 清和高原天文台貸切り！！

熊本大学天文部(旧:熊大天文研究会)

30周年記念イベント報告 高田祐一(6期 運営委員)

今は昔、熊本市は熊本大学がある黒髪地区。熊本大学天文同好会の活動にあきたらなくなった、有馬博さん(1期 元運営委員)と堀田守男さん(1期 元運営委員)らの元で、あらたな同好会が生まれようとしていた。その名を熊本大学天文研究会(以下、熊大天研と略す)、現在の熊本大学天文部の前身である。

大学の公認サークルでなかった熊大天研は(というか、この当時、熊大では文化系の公認サークルなど存在しなかった)、黒髪4丁目の廃屋同然の住宅の2階を借りて、そこを拠点に活動をはじめた。今をさかのぼること30年前、1981年のことである。(ちなみに、その後熊大天文同好会も2階の隣の部屋に越してくることになり、2サークル同居時代をむかえる)

このころは、熊本県民天文台(以下、県民天文台と略す)の創設時期(1982年)と重なり熊大天研メンバーは、県民天文台の会員としても盛んに活動をおこなった。

開台時、山田屋旅館での打ち上げ宴会のメンバーの壮絶な飲みっぷりは伝説とさえなっている。

ここで、私の在籍期間(1985年~1989年)の間の最大のイベントを紹介しておく。それは、熊大天研の中興の祖となった、芳野博之さん(5期 元運営委員)の元で、ハレー彗星の回帰にあわせ、1986年3月に沖縄・波照間島への3週間におよぶ遠征をおこなったことである。この模様は、TV局の取材もあり、ローカルながら熊大天研の実態が東海地方のお茶の間のTVに映し出された。

また、1987年の県民天文台メンバーと合同でおこなった、清和村(現・山都町)井無田高原へのブラッドフィールド彗星の遠征観測も特筆すべき出来事として記載しておくべきである。これがひとつのきっかけになって、様々な経緯の結果、後に清和高原天文台が誕生するのである。清和と言えば、始まったころの清和スターフェスタも私の少し下の世代の熊大天研が、運営をがんばっていた。

また、この当時、県民天文台の当時の運営委員18名程のうち、半数以上が熊大天研のメンバーであったことも記しておく。

その後、活動は繁栄と衰退を繰り返し、あるいは、暗黒期(後述)を経験しながら、今日まで至っている。今や、大学の公認サークルとなり、顧問の磯部先生もついて、部員50人(2011年10月推測)の大所帯にもなっている。

いやはや、創設者ではなくとも思う。よくぞここまで、続いたものである・・・

そして、30周年を迎えた今年、清和高原天文台を(ほぼ)貸しきって、OBとその家族、現役学生、顧問の先生方を総勢60余名が集合して、30周年記念行事が開かれたのです。

9月17日(土)、長女と乗せた車を急ぎ走らせ、清和高原天文台につくと、もうすでに開会式が始まっていました。天文台の1階ロビーには、大勢のOB~懐かしいメンバーと、若手の現役が、ところ

狭しとギョウギョウ詰め押し込まれ、熱気ムンムンでした。私は、とりあえず、空いているところに体をすべりこませました。

ちょうど、08から、現役世代へ20cm望遠鏡の贈呈が行われていました。受け取り人は、現役学生、第30代部長の北川可奈子さん(30期)。お礼の挨拶と、いまや部員が50名にもなって大変だということ話をされました。がんばっていますね。

その後、遠方からやってきた人を中心に挨拶をおこないました。はるか北海道の中でも北にいる松崎達二さん(6期 元運営委員)からは、メールでのお祝いの言葉が届いており、芳野さんの巧みな言い回しで会場は受けていました。熊本県民天文台からも、お祝いのお酒「香露」を用意して、私が持っていきました。白状します、これを一番飲んだのは私です。永井智幸さん(7期 元運営委員)のテキパキとした事務連絡の後、開会式は終り、その後、夕食へ。天文台付属のレストランはあるものの、とても、1回では入りきれないので、2グループに分かれ、はじめは、我々家族組がごちそうになりました。娘はこのあと、濱野忠隆さん(11期 元運営委員)の子供達と意気投合して、帰るまでずっといっしょに過ごします。

この記念行事の目玉は、熊大天文部が開発した手作りプラネタリウム上映です。これはいつも学園祭向けに作成しているものですが、今回は30周年のため、はじめて黒髪の地を離れ、はるばる清和で組み立て設営をしてありました。

我々が食事をしている最中、もう一つのグループは、プラネを鑑賞していました。私は、食事を終え、3回目の上映のときにプラネタリウムにはいらせてもらいました。入った時は、プラネタリウムの天井が下がっていましたが、ドームを密封すると、扇風機3台の空気圧でだんだん膨らんできました。宇宙膨張を模式的にしめす風船を思い出しました。残念なことに、プラネタリウム専従の学生さんが食事の番なので、なかなか説明がおぼつかない様子でした。

そこで「県民天文台で運営をやっていた人～、手をあげて」と言うと、濱野さんと宇都哲郎さん(10期 元運営委員)と薮田貴士さん(12期 元運営委員)が名乗りでたので、レーザーポイントを学生さんから借りて、我々で「解説」をはじめました。運営委員経験者が4人集まると怖いもの知らずです。ただ、1等星、2等星、3等星、4等星までもが、ほぼ同じ明るさで投影されているという状況の中、星座を同定していくことは、運営暦26年の私でも至難の業でした。そのため、星座の並びに気づいた人から、解説するという変則的なものになりました。レーザーポイントが、次々と元運営委員の手を渡りました。

この記念行事で久々会う人ばかりでした。私が熊大にはいったばかりのとき、同じ物理の院にいた小濱聡一郎さん(2期)と再会。大学入学時の10代の私は、恐れおおい人でした。

佐藤博之さん(2期)とも本当、25年ぶりに再会しました。熊本市市役所の組合をやっているということで、同じ職場の私の義弟の名を出すと、労使交渉で丁々発止とやりあう相手だと、驚かれ、世の中狭いもんだな～とあらためて思いました。

顧問の磯部博志先生(地球惑星科学 熊大准教授)とは、菊池川自然塾でのお付き合いがあ

って、「今度の10月30日の隕石の話、どうなっていますか？」と聞くと、主催者のT先生から、まだ全然連絡がないとのことでした。「じゃあ、ぼちぼちしましょう」と話しました。

その後、プラネタリウムを撤収した視聴覚室をつかって、特別講演会が開かれました。講話者は、堀田さん、小林寿郎さん、立川正之さんです。

堀田さんからは、自宅の観測室、観測機材の説明から、熊大天研会誌「ミラージュ」の命名秘話？まで飛び出しました。小林寿郎さんからは、彗星のアカデミックな話。立川正之からは、小天体木星衝突発見のいきさつなど。学生さんにとっては、大の大人が天文一途に打ち込んでいる？生の様子が本人達の肉声で伝わり、おおげさに言えば、世界感が変わるほど~~ショック~~感銘を受けたことと思います。

講演のあとは、そのまま会場は、大宴会場に早代わり。皆に、ビールや酒や焼酎やつまみが回されて、どーっと盛り上がりました。宴会の最中、各自にマイクを持たせて、全員になにか一言づつしゃべってもらいました。ここでも、芳野さんの司会進行のうまさひかり、しゃべっているときは、みな話を聞いており、場がまとまった一体感がありました。なお、この模様は、インターネットで、映像配信されていて、今回参加できなかった、糸永修司さん(7期 元運営委員)、三上ひろしさん(8期 元運営委員)、松崎さんが、「飲んだくれー」とチャットしていたとか、いなかったとか。

この時、会場には、30年、ダンボール1箱分の部誌が持ち込まれました。当時、携帯電話もない時代、サークル内の連絡をとりあうのは、この部誌に各自が書き込むものだけでした。単なる連絡から、議論から、ののしりあいまで、極端な言い方をすると、サークルにおける自分の存在そのものが、ここに書き込まれているのです。今、見返すと、懐かしさや恥ずかしさでいっぱいになりました。

視聴覚室からあふれた人たちは、1階ロビーまで出てきて、そこでも宴となっていました。この天文台で、かつて、このような大宴会が繰り広げられたことはあったでしょうか？

宴会の終了は予定より30分ぐらいおしたようです。ロッジへの帰り道に、いまや熊大で教鞭をとっている、富永昌人(6期 元運営委員)(中国へ学会のため欠席)の教え子と雨の道を歩きながら、彼の現役時代の失敗談を話していきました。

そして、あるロッジでOBが集まって、再び飲み会。古川英生さん(4期)が、県庁の仕事で、佐賀県立宇宙科学館のプラネタリウムのリニューアルのため、2億円の予算をとったということ話をされていました。吉田健二さん(5期 元運営委員)は、一時期、ふっくらとしていたのですが、今は奥さんの管理？の元、学生時代と変わらない体型に戻られていました。反対に、甲斐謙一さん(7期 元運営委員)は、2009年上海日食で、会ったときよりも、さらに貫禄が増していました。本人は「幸せ太り」ですよと話されていました。

その後、しこたま酒を飲まれた後、ロッジの2階から、写真を撮っているところで、さずがに酔いがまわって寝てしまいました。一旦、目を覚まして自分のロッジに戻ると、ベッドの隙間に落ちていた人が見えましたが、そのままベッドに倒れこみました。

明け方目を覚ますと、くだんの人はベッドにあがっているのが見えましたが、うつぶせになっていて、な

ぜかお尻だけ裸でした。頭痛がひどかったのですが、朝食の時間が終わりかけていたので、子どもがいる隣のロッジにいくと、親を見捨てて自分たちばかりさっさと食べた後でした。

朝は、再びみんな集まって、記念撮影会。小林寿郎さんが、自慢のカメラで皆を撮ってくれました。(ISO1600の高感度で)

そして散会。今回のため、準備をされた有馬さん、芳野さん、永井さん、中尾達也さん(17期元運営委員)ご苦労さまでした。

自宅へ帰る車の中で、娘が子供達だけでロッジにいたとき発生した「2大事件」について話してくれました。そのひとつの事件の解決に、牟田加奈さん(旧姓 石井 10期)が協力してくれたそうです。

自宅へ帰ると、小林寿郎さんから連絡があり、自宅のある新町は藤崎宮秋季例大祭があるため、家から車を出せなくなったとのこと「お前 堀田を天文台へ連れていってくれ」電話口からはパッパッパラーと行列の喧騒が聞こえていました。

それから、堀田さんを拾うため車を走らせると、森秀樹さん(6期)の車に乗っているところで連絡がきました。祭の渋滞で車が身動きとれていないそうである。Uターンを指示して、こちらに向かわせ、森号から、堀田さんと渡辺知史(4期)さんを、こちらの車に分乗させました。

途中、宮本幸男さん(名誉台長 元運営委員)のところに寄ろうと、近くまで来て電話をかけると、奥さんがでられて「今、パソコンを分解していて、部屋がちらかり放題なのヨ、オホホホ」と、取り込んでいっちゃうようなので、今回は遠慮しました。その後、渡辺さんを熊本の実家に送り、堀田さんを県民天文台へ連れてきました。

県民天文台では、主要メンバーが集まって、宴会になりました。



## ちよつと一服

### Poem & Illustration

月の出の後、雲の間にちらりと見え隠れの中秋の名月は、21時過ぎには見事に煌々と輝く姿を見せてくれました。さて、芋名月の次は栗名月。13夜です。

すっきりと秋晴れの空を期待したいところですが、なぜかこのところ「秋晴れ」、お目にかかれませんか。雨は降ってなくても、雲が多く、天気予報で秋晴れと言っているのに期待していたらなんと煙霧…天高く青い空はどこへ行ってしまったのでしょうか…

流星群も次々来ますし、28日の月と水星の接近も見たいし。どちらも、空がスカッと晴れて透明度が高くないでは望めないことです。

秋晴れ、早く来ーい！



## 十三夜

ほんのすこし  
欠けているところがいいのです

たおやかに ほほえみながら  
そのひとは

だれだって  
完璧な人間なんていやしないのを知っている  
けど  
完璧でありたいと願うことの多さ

「欠けたることの なしと思へば」  
という呪縛を  
どれほど 求め 求められ  
ぎりぎり と 息もつけないほど  
縛り付けられていることが

そのひとは  
たった ひとことで  
するすると 解いてしまった

そういう美意識を  
古来 日本人は持っているのですよ  
と



By Dio

# 2011年9月の県民天文台 ～運営日誌より～

開台率 7日/14日=50.00%  
一般来台者数 153名

総開台日数 11日  
会員来台数 31名

日付	天気	担当運営	来台数	記 事
4日 (日)	くもり	艶島 橋本	4人	双眼鏡と41cmとで雲間に見える星を観察。電子紙芝居で「星の誕生と死」「ブラックホール」を上演
6日 (火)	晴れ	艶島	0人	草刈りをしました。8日の日中に見学者が来る予定だし、12日の夜はフィールドミュージアムですから
8日 (木)	晴れ	艶島	11人	託麻公民館自主講座 望遠鏡と天文台について説明 電子紙芝居を使いながら、天文台の活動や魅力について解説
10日 (土)	晴れ	高群  艶島、小林J 西嶋、高群 高田小林M	3人	月と夏の大三角についての解説 アンタレス・ベガ・木星を見ていただきました。手作り望遠鏡を持ってこられていたので、使い方を解説しました。 トークアバウト 星屑発送 9月、10月の運営について
11日 (日)	晴れ	艶島 小林M	5人	月、アンタレス・木星・アルタイル・M7・M13 天王星
12日 (月)	曇りのち晴れ	艶島、西嶋 中島、高群 橋本小林M	65人	フィールドミュージアム 「中秋の名月を見よう写そう」  M101の超新星、ギャラッド彗星の紹介 月の写真の写し方を講習(ペットボトル利用) 月面の海の名前、アポロの着陸地点・解説 夏の大三角、へびつかい座・いて座の説明 ブラックホール、月と地球と距離など  月が見えて写真も撮れて一応成功でした。

日付	天気	担当運営	来台数	記 事
14日 (水)	晴れ	艶島	1人	「9/10土曜日の夜に、月が3つ見えたので写真に撮った」という方が来台。「今、天文台の前にいる」というので駆けつけました。 画像を見てみたら、ハレーションを起こした月ときれいな月、うすく見える月、さらに薄い月・・・・・・・・。多分ゴーストです。 でも、「肉眼で見えたから撮った」のだそうです。もしかしたら、目の中でもゴーストが発生したのでしょうか？
18日 (日)	曇り / 晴れ	艶島  堀田、艶島 小林J高田 西嶋、中島	0人	木星  堀田君来台！熊大天文研究会30周年記念の会からの流れです。 昔の話で盛り上がりました。 木星がきれいに見えました。 今回は意外とまともに寝られました。
23日 (金)	快晴	小林J西嶋 高田	37人	アークトゥルス、ミザール、アンタレス、アンドロメダγ、ギャラッド彗星、ベガ、木星、M22,M7,M13,M31,M110 お客さんに黒糖ドーナッツ棒をいただきました。
24日 (土)	晴れ	中島、西嶋 高群	27人	アークトゥルス、ベガ、木星、天王星、海王星M13,M31,M45 今日も次々とお客さんが来台 木星が美しく見えました少しシーイングが悪い！
25日 (日)	曇り	艶島	0人	晴れの予報だったのに、朝から曇り空。時々ぱらっと雨も落ちてきました。19時前に一応来てみましたが、どうにも晴れそうにありません。19時半で帰ります。

今月は、後半にお客さんが大勢詰めかけるという意外な展開になりました。昼間に古墳公園に来て、天文台があることに気がついてやってきましたという方がけっこう多くなりました。熊本市に編入して熊本市の広報誌にも登場する機会もあることも原因かもしれませんね。

今、古墳公園のコスモス畑が満開です。昼間のコスモス畑もすてきですが、月夜のコスモス畑もまた格別です。2年前に撮った月夜のコスモス畑と星空の写真は、構図を考える暇もなく月が沈みそうになったので失敗でした。今年再度挑戦してみようかな。

10月30日(日)火の君祭りが行われます。いい天気だと良いのですが。

中秋の名月、素敵でしたね。最初は雲が多かったので無理かなあと考えていましたが、月が昇るにつれて晴れてきました。綺麗なお月見が出来て、本当に良かったです。そして11月はしし座流星群が見られます。沢山流れ星が見られると良いですね。10月30日は天文台がある塚原古墳公園で、火の君まつりが開催されます。天文台でも昼間の星を見る会があります。朝9時からです。是非お越し下さいませ。

### ☆ 11月の天文現象 & 行事 ☆

- 3日(木) 上弦(01:38)
- 4日(金) おうし座流星群が極大のころ
- 5日(土) アンドロメダ座Rが極大(5.6~14.9等 周期409日)
- 8日(火) 立冬(りっとう…冬の始まりで、これより次第に冷氣深くなる)
- 10日(木) 夕空に水星と金星、アンタレスが接近
- 11日(金) 満月(05:16)
- 12日(土) **トークアバウト**(天文台にて 20:00~ 変更の場合もあります)
- 13日(日) おうし座流星群が極大のころ
- 14日(月) 水星が東方最大離角(17:40 -0.2等、視直径06.6")
- 17日(木) 18日19日にかけて、しし座流星群が見られる
- 18日(金) しし座流星群が極大
- 19日(土) 下弦(00:09)
- 23日(水) 小雪(しょうせつ…寒気つゆのり、雨凍って雪となるという意味)
- 25日(金) 新月(15:10) 海王星が東矩(15:32 7.9等、視直径02.2")
- 27日(日) 夕空で月と水星、金星が接近する
- 28日(月) 12月2日にかけて小惑星15番エウノミアがカリフォルニア星雲を通過
- 30日(日) **火の君まつり** 9:00~ 熊本市城南町塚原古墳公園・熊本県民天文台

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2011年11月号 通巻440号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226

熊本県熊本市城南町塚原2016番地 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01700-5-105697

NPO熊本県民天文台事務局

天文台ホームページ <http://www.kcao.jp/> メールアドレス [astro@kcao.jp](mailto:astro@kcao.jp)

メンバーリストの加入申し込み受付中 [kcaohige2003@yahoo.co.jp](mailto:kcaohige2003@yahoo.co.jp) 中島まで